

2020年産「アルプス米」コシヒカリ栽培こよみ(JA米)

登熟を高める「根づくり」とそれを育む「土づくり」

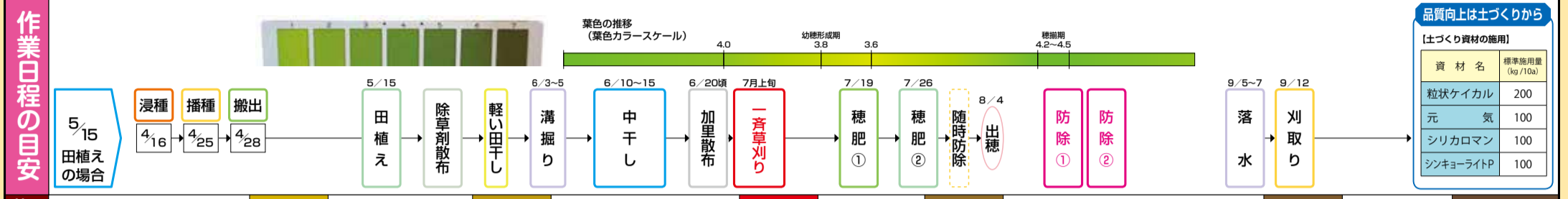
高品質なアルプス米につなげる6つのポイント

- 土づくりの徹底
- 5/15を中心とした田植えと70株植の推進
- 溝掘りと田植後1か月以内の中干し
- 適期に適正な防除で被害を防止
- 生育時期に応じた水管理の徹底
- 適期収穫

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

収量構成の目安 (540kg/10a)

収量構成	目安
m ² 当たり穂数(本)	400
一穂粒数(粒)	70
m ² 当たり籾数(粒)	28,000
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5



品質向上は土づくりから
【土づくり資材の施用】

資材名	標準施用量 (kg/10a)
粒状ケイカル	200
元 気	100
シリカロマン	100
シンキョーライトP	100

水管理の目安

- ①生育初期の浅水管理
- ②田植後1か月以内の中干し
- ③中干し後の間断かん水
- ④幼穂形成期後の飽水管理
- ⑤出穂後20日間の湛水管理
- ⑥収穫5~7日前までの間断かん水

水管理の目的:

- 浅水管理で水温を上げる ~初期茎数の確保~
- 溝掘り・中干し ~適期に遅れず~
- 間断かん水 ~酸素と水分の供給~
- 飽水管理 ~窒素の吸収を促し葉色を確保~
- 出穂後20日間の湛水管理 ~稲体の活力維持~
- 間断かん水 ~品質の向上~

【間断かん水の効果】
①土壌に酸素と水を供給して根の発達を促す
②肥料持ちは良好にする

【飽水管理の効果】
①根が常に水分吸収可能な状況を維持することで急激な葉色低下を防ぐ
②肥料持ちは良好にする

管理のポイント

- 土づくり:** 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。土づくり資材や堆肥を施用する。
- 健全な乾燥調製:** 19mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。水分14.5~15.0%に仕上げる。
- 適期収穫:** 初黄化率85~90%頃に刈り取る。高温年は80%から。
- 収穫までの水管理:** フーン時はあらかじめ入水する。刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。
- 防除の徹底:** 生育ステージに合わせて防除を実施する。1回目は穂抽期、2回目は傾穂期。
- 出穂後20日間の湛水管理:** 葉色が淡い場合は、出穂前に追加施肥を施用する。2回目以降は1回目以降から1週間後を目安に施用する。1回目以降は幼穂長15cmと葉色を確認してから施用する。
- 適正な穂肥:** 幼穂形成期から飽水管理。草刈りを終える。7月上旬までに畦畔や雑草地の草刈りの徹底。確認してから! 必ず幼穂長15cmを1回目以降は、
- 中干しは適期に開始:** 6/20頃に「エヌアイ加里」または「珪酸加里」を施用する。中干し後は幼穂形成期まで間断かん水を行う。
- 溝掘りは確実に:** 活後は、浅水管理をする。植付深さは3cm。植付本数は株当たり3~4本。栽植密度は坪当たり70株を確保する。苗箱施肥による防除を実施する。基肥は基準量を施用する。
- 田植後は5月15日を中心に:** 撤出直後から換気の徹底。田植時期に応じた計画的な育苗を行う。
- 健苗育成:** 代かきは、均平に努め、練りすぎに注意する。ゆつくりと耕起し、作土深を15cm以上確保する。
- 耕起・代かき:** 確実に施用する。秋施用できなかった場合は、土づくり資材を

4月25日を中心とした播種

○5月15日を中心としたコシヒカリの田植えに合わせ、播種日は4月25日を中心とする。
○育苗日数は20日以内を目安とし、老化苗の発生を防止する。

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/8頃	4/19頃	5/10	8/1頃
4/16頃	4/25頃	5/15	8/4頃
4/24頃	5/2頃	5/20	8/7頃

育苗日数が20日程度でも、苗の生育量は十分に確保できる!

栽植密度は70株/坪

適期の中干し開始・適度な中干し実施

○田植後1か月(8葉期頃)は最も根が伸びる時期です。この時期に中干しをすることで根の伸長を促進します。
○中干しの効果を高めるため中干しの前には溝掘りを確実に実施しましょう

中干しの有無による根の姿

乗用管理機での溝掘り

- 適正な中干し: 葉が直立、茎が太い、根量が多い
- 中干し未実施: 下葉が枯れる、茎が細い、根量が少ない

適期で適正な防除で被害を防止!!

病害虫防除体系

【育苗基本防除】・苗箱薬剤は、規定の薬量(50g/箱)を厳守し、箱全体に均一に散布する。

薬剤名	散布量	使用時期	対象病害虫
ルーチンアスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	葉いもち、白葉枯病、イネズムシ、イネネットムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期~移植当日	葉いもち、イネズムシ、イネドロオウムシ、イネネットムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、(白葉枯病)
※紋枯病の常発地の場合 エバーゴルド箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	葉いもち、白葉枯病、紋枯病、イネズムシ、イネドロオウムシ、イネネットムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

※対象病害虫の()内は移植3日前~移植当日のみ登録あり

【本田基本防除】・粉剤、液剤体系

防除時期	随時防除		基本防除	
	紋枯病の発生が多い圃場	紋枯病+カメムシが多い圃場	穂抽期	傾穂期
粉剤	出穂10日前頃 バリダシ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	出穂始め(随時) バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラプサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシ液剤 5,000倍 (収穫14日前まで)	バリダシ液剤 5,000倍 (収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍 (収穫14日前まで)	ラプサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤 10,000倍 (収穫7日前まで)
対象害虫	紋枯病	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

除草剤散布は遅れずに

雑草防除体系

●5cm程度の水深を確認する。
●除草剤散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

【初期剤+一発処理剤】
ピラクロン1キログラム粒剤 1kg/10a (田植同時~5日後)

【初期剤+中期剤】
メテオ1キログラム粒剤 1kg/10a (田植同時~5日後)

【一発処理剤のみ】
エンペラー1キログラム粒剤 1kg/10a (田植同時~5日後)

※雑草が残った場合
【広葉雑草が残った場合】
バサグラン粒剤 3~4g/10a 落水散布 (田植後15日~5日後、収穫6日前まで)

【針葉雑草が残った場合】
クリンチャー1キログラム粒剤 (ノビエのみ) 1kg/10a 田植後7日~ノビエ4.0葉期まで (1.5kg/10a 田植後25日~ノビエ5.0葉期まで (出し、収穫30日前まで))

トドメ1キログラム粒剤 (ノビエのみ) 1kg/10a 田植後14日~ノビエ5.0葉期まで (出し、収穫50日前まで)

土壌に応じた適正な施肥量

コシヒカリの基肥施用基準

生育量を確保するために、基肥量はしっかりと施用する。

土壌区分	肥効調節型肥料		分施肥体系(基肥+穂肥2回)	
	肥料名	施用量(kg/10a)	肥料名	施用量(kg/10a)
砂壌土	コートコシヒカリ1号	35	けい酸加里入りLPssコシヒカリ1号	45
	コートコシヒカリ2号	27	けい酸加里入りLPssコシヒカリ2号	35
半湿田黒ボク土	コートコシヒカリ1号	30	けい酸加里入りLPssコシヒカリ1号	40
	コートコシヒカリ2号	27	けい酸加里入りLPssコシヒカリ2号	35
粘質土	コートコシヒカリ1号	30	けい酸加里入りLPssコシヒカリ1号	40
	コートコシヒカリ2号	27	けい酸加里入りLPssコシヒカリ2号	35

追肥3号: 10, 12, 10, 10

◎高品質・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!